

喜多方市市民活動 支援センター通信

発行：2022年10月
発行者：喜多方市市民活動
支援センター

Vol.43(2022年度 第3号)

市民活動団体紹介

コーダードジョー

CoderDojo 喜多方

【代表：遠藤 雅敬 さん】

（Q.どんな活動をしている団体ですか？）

7～17歳の子どもたちを対象にした、無料のプログラミング道場です。CoderDojoは、2011年にアイルランドで始まり、世界では112カ国・2200のDojo、日本には210以上、福島県内にも喜多方の他に4つのCoderDojoがあります。

CoderDojoでは“スクラッチ”というブロックプログラミング※や電子工作など、参加した子どもたちが好きなこと・興味のあることに自由に取り組んでもらい、プログラミングを通してアイデアを具現化し、創造するお手伝いをしています。

※ブロックプログラミング…プログラムは「コンピューターを動かすための命令」です。本来はプログラミング言語を使って作るプログラムを、「命令」が書いてあるブロックを並べるだけでできるので、専門知識のない人でもプログラミングができます。

小さな便器のフタを→
自動で開けるプロ
グラミングに挑戦し
ました！



（Q.活動を始めたきっかけは？）

喜多方出身ですが、現在は埼玉県在住で、フリーのITエンジニアをしています。東日本大震災後、地元に対する支援が何もできないことにモヤモヤしていた時、埼玉のプログラミング教室で子どもたちがとても楽しそうに取り組んでいる様子を見て、これなら自分にもできると思いました。そこで、まだまだプログラミングを学ぶ環境が少ない喜多方の子どもたちにそういう場を提供できればと考えました。

（Q.これからの活動について教えてください。）

2018年に活動を始めて9月で丸4年。これまでに40回のDojoを開催しました。何度も参加してくれる子もいますが、まだまだ参加者は少ないのが現状です。未来のITを担う人材がここから出てくれたらとの期待を持ちつつ、「プログラミングは楽しい!」と感じてくれる子どもたちが増えることを願って、今後も毎月1回（第3土曜日）、Dojoを開催していきます。また、今年から大人版CoderDojoのようなことも始めました。興味のある方、ぜひご参加ください！



（Q.みなさんへ一言）

人手不足や少子高齢化による様々な課題は、ICTで解決できることがあると思います。みなさんの生活にICTがもっと身近になるよう、お手伝いができればと思っています。この活動は全てボランティアです。今後も長く続けていけるよう、みなさまから支援をいただくと幸いです。また、たくさんの子どもの参加もお待ちしております!!

開催案内や活動報告などは公式HPをご覧ください↑



現場からレポート

喜多方更生保護女性会 福島自立更生促進センターに支援物資提供

毎年、福島自立更生促進センターへの支援として、生活必需品などの支援物資を届けています。8/19(金)に喜多方・北塩原・西会津の12地区の会員が、洗剤や歯ブラシ、タオルなどの日曜雑貨品を持ち寄り、今年もたくさんの支援物資をお送りしました。

更生保護女性会は、更生保護の心を広め、青少年の健全育成と、過ちに陥った人たちの更生のための支えとなり、一人ひとりが人として尊重され、社会の一員として連帯し、心豊かに生きられる明るい社会をめざして活動しています。しかし、年々、会員の高齢化が進んでいるそうです。「罪を犯した人が刑期を終え出所した時、周りの人たちが一社会人として受け入れることができるあたたかさを持っていないと、再び罪を犯す人が多くなってしまいます。更生した人を犯罪者として見る目をなくしたいと思っています。更生保護の心に賛同される方、是非入会していただけたらと思います。」と会長の湯田さんはおっしゃっていました。



↑会員さんが持ち寄った支援物資は
大きな台車1台分もありました!

